

和歌山県立医科大学附属病院 皮膚科

当科の特徴

当科には皮膚科専門医10名、皮膚悪性腫瘍専門医1名、日本リウマチ学会専門医1名、日本アレルギー学会専門医1名、レーザー美容皮膚専門医3名、抗加齢医学専門医1名、肉腫専門医1名が在籍し、指導体制が整っているため、これらの専門医取得に必要な手技を全て学ぶことができます。例えば皮弁術や悪性腫瘍の手術手技の指導体制が確立しており、入局数年で多くの医局員が植皮や皮弁術などを習得しています。さらに炎症性疾患や膠原病患者などの全身性疾患の入院患者数が近年急速に増加しており、内科的・外科的両方の疾患の診断から治療までの全てを経験できる診療体制を取っています。ヘルペスウィルスのPCR検査や皮膚癌の遺伝子検査などの高度医療を全国に先駆けて施行し、近畿一円をはじめとして全国さらには海外より紹介患者を受け付けているため、まれな疾患を含む多彩な症例を経験することが可能である日本有数の施設となっています。

また、設備として乾癬・アトピー性皮膚炎等に対する紫外線治療機器や母斑や血管腫に対する各種レーザー、美容のための顔面皮膚計測機器を所有しています。さらに多彩な疾患に対するオプジーボやデュピクセントをはじめとした分子標的薬などの最先端医療を実施できるほか、連携施設は全て比

較的大学病院から近く、common diseaseから稀な疾患までバランスよく経験できる病院となっています。

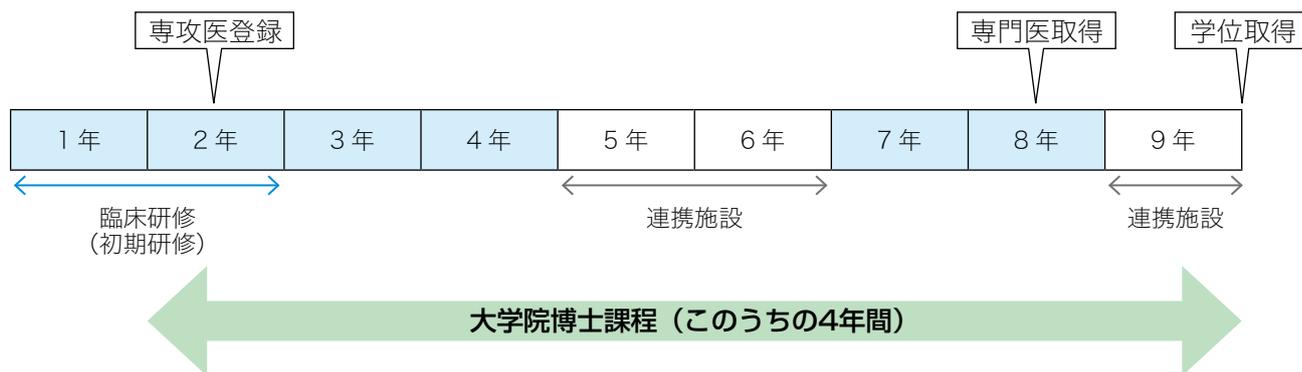
卒後1、2年目の臨床研修（初期研修）修了後、3年目からは原則、新専門医制度に準拠した「和歌山県立医科大学皮膚科専門研修プログラム」に従って研修を行います。まずは専門医取得を最低限の目標としていますが、加えて同時に大学院へ進学し学位の取得を目標とする研究活動、国内・国内留学も行うことも可能です。



ローテーション例

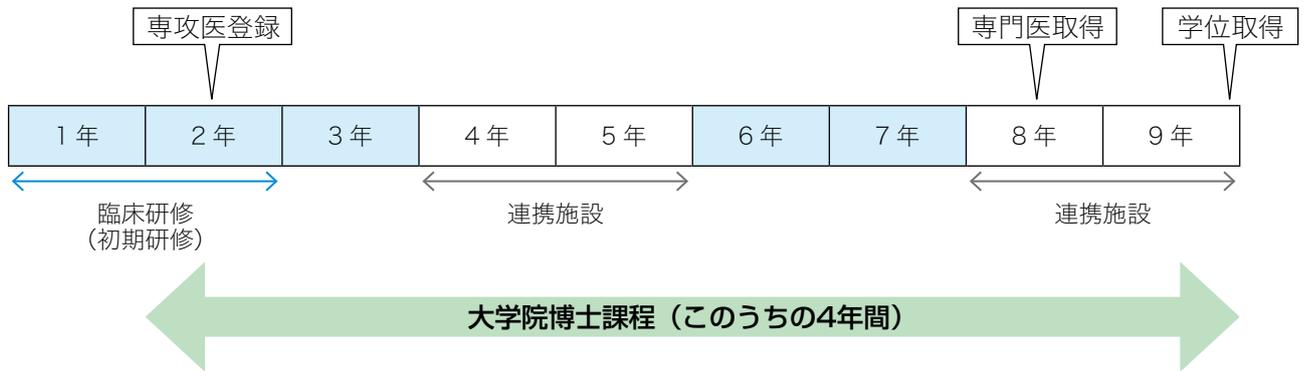
一般枠コース

※ □ は学内研修



一般枠コースでは、新専門医制度における専門医取得に必要な5年間の修練期間のうち、最低1年間は日本赤十字社和歌山医療センター・和歌山ろうさい病院・公立那賀病院等の地域中核病院である連携施設で研修する必要があります。残りの期間は基幹病院である学内で修練したり、高度な医療の習得のための国内・海外留学や学位取得のための大学院への入学を積極的に奨励し、多くの実績を有しています。専門医取得後の進路は幅広く、大学病院で高度な先進医療に取り組み海外学会で見聞を広めたり、地域中核病院で指導的立場となりながら週1回は大学で診療・研究し、得意分野を持ってジェネラリスト・スペシャリスト双方の立場で活躍できる医師を目指すことができます。

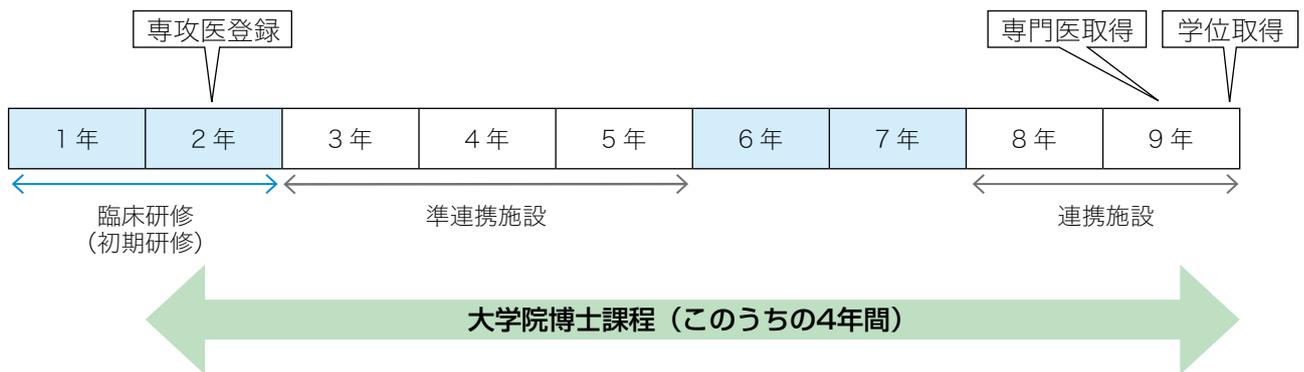
ローテーション例 **県民医療枠コース** ※ □ は学内研修



県民医療枠コースも、基本的には一般枠コースと同様ですが、義務年限を満たすために無理のない範囲でできるだけ長く地域の中核病院の勤務することが可能です。連携施設は全て症例が豊富で、比較的大学に近い地域ばかりであるため異動もしやすい場所となっています。



ローテーション例 **地域医療枠コース** ※ □ は学内研修



地域医療枠コースの医師が勤務する可能性がある病院のほとんどを準連携施設としているため、内科勤務のうち最大2年間で専門医の修練期間に算定することができます。その他、皮膚科への情熱を失うことがないよう、様々な工夫をしていますし、皮膚科であれば総合医や家庭医としてのスキルを診療にも必ず活かすことが可能です。連携施設では、内科勤務の間に皮膚科の修練も可能な可能性もあります。大学院では、社会人大学院生として他施設で勤務しながら研究を行うことが可能です。



研修目標

当科での研修は以下の能力を身に付けることを目標としています。

- (1) 皮膚疾患の臨床的・病理組織学的特徴の正確かつ詳細な記載
- (2) 適切な鑑別診断と検査計画の立案
- (3) 外用剤の使用法、消毒、処置の習熟
- (4) アレルギー疾患・膠原病などの診断から治療決定までのプロセスの習得
- (5) 皮膚外科、美容皮膚科、熱傷・褥瘡処置の基本的な手技・知識の取得

教授からのメッセージ



神人 正寿 教授

まず一般論として、医者として生きていくには大きく分けて大学病院、臨床病院、そして開業の3種類しかありません。

しかし、医学部新設や定員増加が日本の人口の減少と相

まって医師が過剰になり、今後生き残るのが難しくなる可能性があります。そんな中、自分はこうだと視野を狭くすることなく、上記の色々な選択肢をできるだけ維持するような働きかたをしておくべきではないでしょうか?当科は今の時代のニーズにあわせて、知識や技術を伝える教育機関、勤務環境を改善する労働組合であると同時に、多彩なロールモデルを提供できる場であると自負しています。学会出張や急病、産休の際にはお互い助け合い、大学病院、臨床病院、そして開業のどの道に進んでもお手伝いできる医局です。

経験目標

皮膚科は、内科系・外科系をはじめ幅広い分野をカバーしているため、必ず興味のある分野が見つかります。

- ・アレルギー(アトピー、蕁麻疹、薬疹など)
- ・乾癬(尋常性乾癬、掌蹠膿疱症など)
- ・水疱症(尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡など)
- ・膠原病(強皮症、エリテマトーデスなど)
- ・皮膚感染症(白癬、ヘルペスなど)
- ・皮膚腫瘍(悪性黒色腫、悪性リンパ腫など)
- ・脱毛症(円形脱毛症、男性型脱毛など)
- ・遺伝性皮膚疾患(角化症、魚鱗癬など)
- ・母斑症(神経線維腫、結節性硬化症など)
- ・血管炎
- ・白斑
- ・皮膚外科
- ・熱傷
- ・光線皮膚科
- ・美容皮膚科
- ・皮膚病理

一週間のスケジュール

	月	水	木	金	土/日	
午前	9:00 外来 (予診・処置・ 陪席)	手術	外来 (予診・処置・ 陪席)	外来 (予診・処置・ 陪席)	手術	
	12:00					
午後	13:00 外科回診 病棟	病棟	病棟回診 病理カンファレンス 形成カンファレンス	病棟 レーザー外来 補助	病棟	
	~19:00					

- ・外来：基本的な処置・対応など
- ・病棟：チーム制
- ・病理カンファレンス、形成カンファレンス

年間スケジュール

- ・6月ごろ：研修医向け全国サマースクール
日本皮膚科学会総会
- ・7月ごろ：皮膚外科学会
- ・8月ごろ：免疫・アレルギー学会
- ・9月ごろ：美容皮膚科学会
- ・12月：忘年会



当科で取得可能な専門医と指導体制

研修施設	皮膚科専門医	皮膚科悪性腫瘍専門医	日本リウマチ学会専門医	日本アレルギー学会専門医	レーザー美容皮膚専門医	抗加齢医学専門医	内腫専門医
日本赤十字和歌山医療センター	○	○	○	○	○	○	○
公立那賀病院	○	○	○	○	○	○	○
和歌山ろうさい病院	○	○	○	○	○	○	○
海南医療センター	○	○	○	○	○	○	○
橋本市民病院	○	○	○	○	○	○	○
紀南病院	○	○	○	○	○	○	○

〈休暇について〉

勤務医は雑用が多く忙しいためになかなか休みが取れない、というイメージがあります。しかし私たちは、いたずらに労働時間を長くすることで自己満足に陥るのではなく、クリエイティブな仕事をするにはしっかりとした休養が必要であるという信念のもと、どんなに忙しくともできるだけ土曜・日曜のうちどちらかはしっかりと休みを取れるようにグループ内で調整しています。また、夏季休暇として2週間の取得を可能としさらに人員に余裕があれば別の duty free 期間1週間が追加されます。このような体制により、全国より集まる難しい症例の診療に対して十分な気力体力をもって望むことができる好循環を生んでいます。

皮膚科に入局して7年目の私ですが、入ってよかったと思うことのいくつかをお話します。

- ① 仕事にメリハリがある（写原病やアレルギー疾患など内科的疾患を診れますが、オベもたくさんできます）
- ② 永く続けられる。（若い頃はオペや救急などばりばり頑張っ、頑張れなくなっても common disease を診て自分のペースで続けられます。）
- ③ 働きやすい環境である。（医局や病棟の雰囲気がよく楽しく診療できます。また、尊敬できる先輩方、楽しい後輩達がたくさんいます。）
- ④ 当直に困らない。（皮膚科には洗面・入浴などに使う試供品が豊富でいろいろお試しできます。）
- ⑤ 2週間の夏休みがとれる。（毎年海外旅行可！）

など、まだまだありますがこれくらいにしておきます。最後に、皮膚科医は治った時の喜びを患者さんと分かち合い、病氣と共に戦っていくやりがいのある仕事です。（皮膚が良くなっているのもその逆も患者さんは見てわかるので…）

私は他の科とさんざん迷って皮膚科に入局しましたが、入ってよかったなと思います。皮膚科に興味がある人がいたら一緒に頑張らませんか？ \^o^/

私は入局3年目です。初期研修2年間を合わせると医師5年目になります。皆さんに医員の平均的な日常生活の一端をお教えします。皮膚科の朝はそれほど早くはありません。

朝9時からの仕事内容は、曜日によって異なりますが、主に外来診療と手術です。外来診療の補佐（暗席や処置外来手術）を行いながら、診療や手技のスキルアップに力を入れます。教授や先輩の先生方の診療を間近で見て、診療のコツや鑑別診断などを実践的に学びます。こういった機会は大学病院ならではの、また若いうちにしか教を請うチャンスはなかなかありません。大学病院ならではの雑務も多いですが、自分の知識や技術を高める大事な時間です。手術の場合は、助手や術者として他病院では挑戦できないような症例も経験します。積極的な姿勢をみせていればどんどん執切らせていただけます。自分で執刀するのはやはり緊張しますが、得るものは大きいです。

午後から夕方にかけて病棟業務に移ります。病棟の受け持ち患者さんの処置や化学療法、診察などを行います。問題のある患者さんや治療方針が悩んだときには病棟医長や病棟にいる先輩医師に相談し、医局全員で診療にあたります。そのため、自分受け持ち患者さんは2-4人ですが、実際にはより多くの症例を経験することができます。

そうこうしているうちに1日が終了し、19-20時頃に帰宅します。月に3回程度は病棟業務からそのまま大学病院の病棟当直へと移る場合もあります。土日は他の先生たちと交代で休みを取るよう工夫しているので、非常事態や緊急事態がなければ週に1回は休日を楽しんでいます。大学病院では医師の数も多いため、交代で夏休みを2週間取得することが可能です。私の場合は、ニューヨークへ旅行することが出来ました。ペースの忙しさはそれほどでもないため、頑張りたい人は自分のペースで頑張ることが可能です。

アルバイトとして、最初は在宅患者さんの往診から経験を積み、入局後半年～1年で外来診療も開始します。皮膚科は専門性の高い科であり、一般の患者さんだけでなく、他科の医師からも必要とされる科であります。また、自分で努力すれば研究や診療などでどんどんスキルアップし、活躍できる領域です。やる気と元気のある後期研修医のみなさんと是非一緒にがんばりたいと思います。

入局2年目

- 1) 平均的な受持ち患者数（3人）
- 2) 月に病院に泊まる回数（当直、その他すべて合わせ）…（2-4回/月）
- 3) 土、日の出勤について…どちらか
- 4) 標準的な出勤時間、帰宅時間について 出勤：8:30 帰宅：19:00
- 5) アルバイトについて毎週平日1.5コマ/週、土曜1コマ/月
- 6) 休暇について1週2回（夏、冬）
- 7) 率直に、皮膚科に入局してよかったか？…良かったと思います
- 8) 心に残るエピソード？…夜中に受け持ち患者の急変があった際に残っていた同期が集合し手伝ってくれた